

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都びあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成25年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の活動予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している</li> <li>・施設の目の前にケアガーデンを有し、恵まれた環境にある</li> <li>・学童保育を併設しており、お子さんとの交流が日常的に行える</li> <li>・全室南向きの個室で、家具の持ち込みも可能</li> <li>・入浴に準天然光照明石温泉を採用し、温浴効果を高めている</li> <li>・リビングは約5メートルの高さから採光を採り入れ、明るい雰囲気。また、床暖房を装備し、真冬でも暖かい</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平屋の玄関を入ると5mの吹き抜けの併設の学童保育施設があり、日常的に子供達と触れ合える。ホームに入るとゆったりとしたダイニングリビングにウッドデッキがあり、多目的な広々としたケアガーデンに出ることもできる。居室は日当たりのよい南向きである。「共に認め合い助け合いながら生活する家族・その人の持てる可能性をたえあい快適な生活…」との理念を職員名札の裏に記載し常に共有している。縁あって共に生活することになった人同士が、言いたいことが言い合える、自分はこうだったと本人の口から言いだせるような言葉かけを大切に、入居者が少しでも長く自立して生活できるサービスの提供に努めている。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所だけでなく、職員ネームプレートにも差し込み、常に意識出来るようにしている	縁あって共に生活することになった人同士が、言いたいことが言い合える、自分はどうだったと本人の口から言いだせるような言葉かけを大切にされた支援を共有することによって、理念の実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際、近くの施設の方や近所の方と挨拶したり、積極的に会話をするようにしている	小学校の運動会や地域の敬老会に参加している。近隣のカフェで毎月誕生会等お茶会をしたり、地域のボランティアの方に来て頂いている。近隣のスーパーやコンビニに買い物に行き店員さん達と馴染みになっている。看護学生の実習の受け入れも行うなど、年々地域との付き合いが広がってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方など、施設に興味がある方には、自由に施設内外を見学し対応している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議という形ではなく、家族同伴食事会(お茶会)を開催。その場で、ご家族からの意見を伺った。	食事会も兼ねて、利用者・家族などが参加して2度開催した。	運営推進会議の本来の意義に立ち返って、地域の民生委員や町会、市の担当者や学童保育関係者などに声掛けし、ホームの活動報告、利用者状況、外部評価結果などを議題として2ヶ月に一度定期的に開催することを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、介護相談員が来訪し、意見交換を行っている	活動報告書や事故報告書などを届けているが、電話での対応が多い。	市の担当者の異動や地域包括支援職員の異動などで、疎遠になりがちのことである。新しい担当職員の方たちとの連携を密にすることが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学童とユニットの間は自由に行き来できるように施錠していない。学童休みもしくは子供がいない場合のみ正面玄関施錠している	「身体拘束ゼロへの手引き」を活用して研修を実施し、意見交換も行った。行動抑制・言葉による抑制・薬剤による抑制など、具体的な行為についての職員理解を高めることが出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施。職員同士見過ごすことがないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で話は出るが、詳しい内容については各職員の自己学習に任されている。必要な利用者に対しては適宜行っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加型の外出を行い、管理者が一家族ずつ要望など話を伺う場面を設けた。	管理者が一家族ずつ要望や意見を伺う機会を作った。ホームの食事の試食の要望を実現したり、外出の機会を増やしてほしいとかポーっとしないようにしてほしい等の意見を職員ミーリングで話し合い、買物の個別外出や風せんバレーやカルタの手作り等を実現する等運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面接の際に、リーダーと話をする機会はあるが、代表者や管理者とはそういった場は設けていない。管理者とは日々の中で職員から話があれば伝えることは出来る	管理者は日常的に職員との会話を多くしており、職員も意見要望などを言い易い雰囲気がある。服装の件についての提案や行事外食の経費の件など職員の要望を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面接などで直属の上司とは話す機会があるため、一般職員の意見等も管理者や代表者の所まで吸い上げられている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について、掲示板に張り出されており、各職員が希望すれば受講することが出来る		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を持つことは出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	居担制にしたり、管理者やケアマネ、他の職員とも気軽に話が出来る雰囲気作りをしている		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族と話し合いを行い、要望等の聞き取りを行っている		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	聞き取りをもとにサービスを開始。開始後問題点等を見極めをしながら、次の支援へつなげるよう努めている		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	出来ることはなるべく自分で行ってもらい、出来ない事は一緒にいき、人として対等な関係性を築けるように努めている		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	利用者本人の事で一緒に悩み、解決の方向へ向けることが出来るよう、家族来訪時には積極的に話掛け関係作りに努めている		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	希望や本人の状態に応じて、家族へいつでもTELできる環境作りなど行っている	<p>デイサービスの元の利用者との交流や元の家の方の近所の方が定期的に訪ねてきたり、老人会の方が訪ねて来る。馴染みの美容院や良く行っていたスーパーに買い物に家族がお連れしたり、懐かしい花火大会に職員がお連れしたりと馴染みの関係継続の支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	それぞれの性格を把握し、状況に応じて橋渡しを行っている。また、個々で築いた関係性は大事にし、日常生活に活かしながら見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設の入所や病気入院などの際は1度は面会に行くように努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞き出し、本人の意向に沿えるよう検討しながらケアを行っている	今までのことや好きなことを、本人・家族に問いかけるとともに、何かを行った時の動作や表情を見て本人の思いを把握している。編み物や手芸が得意な方には行ってもらえるよう支援している。入所時にはセンター方式のA(基本情報)、C(心身の情報)、D(焦点情報)シートを活用し、本人の状態と思いを把握できるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をもとに家族からも聞き取り日頃のケアにつなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録を活用。個人に対する申し送りファイルを共有し現状を把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族、医師への相談する機会を設け、ケアに反映している	家族との面談を年に2回行い、ケアマネジャーが家族に意見を聞いている。プラン更新時には、ケアマネジャーが居室担当者から入居者の状況を聞き取り、職員会議でも利用者の状況を確認し計画を作成している。	ケアプランの目標を把握し、サービスの統一を図れるよう、全職員がケアプランを明確に認識し、ケアプラン作成に職員が今以上に参画できるような工夫を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケア記録活用。個人申し送りファイルにより日頃の変化(急変、特変)を把握出来るようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに応えている。その時、その時、臨機応変に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と共に買い物へ出たり、利用者が毎日のように外へ出ること、その特定の利用者に地域の方が挨拶してくれたり、部分的ではあるが地域との関係性を出来つつある		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけ医に受診してもらっている。訪問診療を利用している方もいる	かかりつけ医受診の方は家族が対応している。職員が家族に口頭で近況を報告し、気になる点を家族を通して質問してきてもらう。近況の報告を書面で渡すことや職員が受診同行することもある。薬変更や診察内容を申し送りでも共有している。精神科、皮膚科にかかる方もいる。往診は週に1回で、申し送りにて処置などの情報を共有している。週に一度の訪問歯科を利用している方もいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃のケア記録をもとに受診が必要な場合、家族対応をお願いしている。状況により同行。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側、またご家族様とも相談の上、退院時期は検討している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を把握し、検討した上で、ご家族との相談、話し合いをし他の施設等へスムーズに転居出来るよう努めている	看取りは行っていない。一人の介護者での介護が難しくなったら他施設へつなげる支援をしている。実際には病院入院となる方が多い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは用意されているが、定期的な実践訓練は出来ていない		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。備蓄倉庫を設置。数日しのげる食料等、最低限必要なものを備蓄	緊急連絡網を作成済みで、緊急時には法人内他事業所の協力も得られる。入居者全員参加で日中想定避難訓練を行った。年2回の避難訓練の他、新人職員を対象とした通報訓練も行った。建物は震度6強まで耐えられるものとなっており、消防設備の定期点検を行っている。備蓄は三日分を用意。	夜間を想定した訓練を複数回行いたいとのことなので、職員全員が参加することができるよう工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせた声掛けを行っている。状況に合わせて対応をしている	トイレ介助では職員が付きっきりの介護とならないようドアの外で様子を見守っている。一人で入浴が可能な方にも職員付きっきりではなく、お一人で入浴してもらっている。入居者が不快に思わない親密さを意識して声かけしており、入居者に合わせた話し方を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような言葉掛けをしている。利用者不在の介護をしないよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理はしないよう、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は利用者本人に任せるが、整髪、髭剃りなど身だしなみの声掛けはしている。利用だけでなく訪問美容もしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	押しつけにならないよう、能力に合わせながら家事行為を一緒に行うようにしている	家族を交えてのお茶会などをユニットごとに開催できた。毎月カフェでお茶会を楽しみ、2カ月に一度は外食に行ったり、お弁当をとったりしている。週に一度、麺の日とパンの日があり、パンは入居者と買いに行く。入居者は皿洗い、食器拭き、盛り付け、包丁を使ったり、ホットケーキなどのおやつを作ったりしている。本人の状態により、本人の望むタイミングで食事を提供するケースもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量チェックを記入。状態に合わせて食事形態を変え提供。補食等の対応もしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれに合わせた口腔ケアを促し、介助をしている。おもに起床時、就寝時。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用。排泄パターンを把握し誘導、サインを見逃さないよう努めている。ポータブルトイレを使用している方もいる	トイレに行く行為を忘れてしまい失敗が続いた方をリハパンへと戻すことができた。支援により失禁の回数が減ったり、夜間失禁のある方のトイレ誘導を検討しなおすことで失敗が減ったケースもある。自立にむけた排泄支援を行うことができています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量にも気をつけながら状況により薬使用		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否なく入浴できるような声掛けに努めている。介助が必要な人は、ある程度時間が決まってしまう。独りで可能な方は夜間浴を実施	入居者に合わせて、バスボード、浴槽台を使用。準天然光明石温泉を取り入れているが、希望により入浴剤を使用することもある。入浴を嫌がる方でも、職員を替えて誘ったり、声かけの回数を増やすことで、週2回は入浴してもらっている。毎日入浴する方もおり、入居者の希望をとりいれた支援となっている。お一人ずつお湯をかえて対応し、石鹸類はそれぞれ個人のものを使用している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、入眠出来るような雰囲気作りは心掛けている。個々の状態により夜間バット交換を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに合わせた服薬方法で服用している。処方箋ファイルがあり、職員全員がすぐ参照、確認することが出来る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ガーデンの散歩やドライブに出かけている。食事準備など、それぞれの出来ることを把握し頼りながら支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ガーデン散歩しながら花を摘んだり、気分転換は心掛けている。近隣の喫茶店へ行ったり外食することもある	毎日外出する方が2名おり、その他の方は週に1～2回散歩している。グランドゴルフに参加している方が6名いる。週に一度、片道20分程度のスーパーへ入居者と買い物に出かけている。桜やチューリップなどのお花見や銀杏などを観に出かけることもある。月に一度、家族との外食を楽しむ方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、事務所で預かり保管しているが、公衆電話をかける小銭を所持している方もいる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を利用して家族への連絡を取っている方もいる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明と水道の自動センサーが利用者にとって習慣が無く混乱をまねくことがある。写真を掲示することで家族に様子がわかるようにしている。	玄関にはソファがあり少し休むこともできる。トイレなどは分かり易いように大きく表示している。広く高い天井と庭へ続く掃出し窓により開放感あるリビングとなっており、オレンジがかった電球を採用することでくつろげる空間になるよう工夫されている。リビングには花が活けてあり、行事の写真も飾られている。換気は適宜行い、加湿器で湿度も保つようになっている。春と秋には、ウッドデッキでお茶を飲むことも増える。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう環境作りに努めている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ち込み使用している	カーテン、電気、エアコン、洗面台完備。タンス、イス、テーブル、鏡台、仏壇などを持参している。家具に地震対策が施されている部屋、カーペットを敷いてある部屋、書や写真を飾ってある部屋、布団使用の部屋とそれぞれに個性ある部屋となっている。足元のおぼつかない方にはつかまり歩きができる動線確保のためにベッドやタンスの位置を変更したり、入居者の起き上がりの向きに合わせてベッドの位置を変更したりと支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで「トイレ」を誘導したり、なるべく自立出来る生活が送れるよう工夫している		